



南東北

- ・一般財団法人脳神経疾患研究所
- ・社会福祉法人南東北福祉事業団
- ・医療法人社団三成会
- ・医療法人社団新生会
- ・医療法人財団健貢会
- ・社会医療法人将道会
- ・医療法人謙昌会

第325号

院是「すべては患者さんのために」

URL: <http://www.minamitohoku.or.jp>
E-mail: pr@mt.strins.or.jp



泌尿器の病気について講演する深谷院長

泌尿器の中心は腎臓と膀胱です。腎臓は尿を作るところで二つあり、非常に大事な臓器です。腎臓で作ら

す。尿管が前立腺に圧迫されて排尿障害や排尿困難、尿閉が起こります。「夜中に何度もトイレに起きる」「おしっこが出るまで時間がかる」「残尿感がある」といった男性の尿のトラブルは、前立腺肥大によるものです。

前立腺の大きさは超音波検査で分かります。治療は薬物療法が主流で、ほとんどが薬で治せるようになります。薬で治せない場合は、温熱・高温治療、経

尿道的内視鏡的前立腺レーザー切除術、前立腺組織内レーザー凝固術などの低侵襲治療を行います。根治的手術もありますが、手術が必要である方は私どもの病院で年間20人程度です。

年々増える前立腺がん患者

60歳以上の男性は毎年検査を

です。直径が5cmにもなると、尿管が前立腺に圧迫されて排尿障害や排尿困難、尿閉が起こります。「夜中に何度もトイレに起きる」「おしっこが出るまで時間がかる」「残尿感がある」といった男性の尿のトラブルは、前立腺肥大によるものです。

数で1位になるだろうと予測されています。

前立腺がんを見つける方法はPSA検査と呼ばれる血液検査です。PSAは前立腺特異抗原、即ち前立腺に特異的なタンパク質の一種です。PSAの基準値は64歳以下なら3.0、65歳以上なら3.5、70歳以上は4.0（単位はいずれもng/ml）です。20以下で転移がなければ、前立腺がんは完治できますので、60歳以上の方は毎年PSA検査を

快適な生活を送るための泌尿器科の管理

加齢とともに頻尿になったり、尿が出にくくなったりするなど、尿に絡むトラブルで悩む人は多いようです。2月15日(金)に総合南東北病院で開かれた2月医学健康講座では、南東北医療クリニックの深谷保男院長（泌尿器科）が「快適な生活を送るための泌尿器科の管理」と題して講演しました。講演の中から男性の前立腺肥大症、前立腺がん、女性の頻尿、尿失禁、泌尿器がんに関する内容を要約し、紹介しま

2月医学健康講座

れた尿は尿管を通って膀胱に溜められ、尿道から排泄されます。男性は膀胱のすぐ下に前立腺があり、そこで作られる前立腺液が精巣（睾丸）で作られた精子と一緒にな

▼前立腺肥大症

前立腺は若いときですと直径2〜3cmですが、40代から50代にかけて大きくなります。50歳で50%、70歳で70%の人が前立腺肥大症

▼前立腺がん

前立腺がんは前立腺の外側に出にくいため、肥大型と違って症状が出にくいのが特徴です。前立腺がんの患者さんは年々増えており、来年には男性の部位別がん罹患

尿道の内視鏡的前立腺レーザー切除術、前立腺組織内レーザー凝固術などの低侵襲治療を行います。根治的手術もありますが、手術が必要である方は私どもの病院で年間20人程度です。

受けてください。PSAが100以上なら骨やリンパ節に転移している可能性があります。転移すると腰などに激しい痛みが生じます。前立腺がんの治療は大きく分けて内分泌療法、放射線療法、手術の3つあります。内分泌療法は薬による治療で、注射と飲み薬があります。放射線療法では、当グループの南東北がん陽子線治療センターで治療を受ける方法もあります。前立腺がんの陽子線治療は保険適応となり、治療が大変受けやすくなりました。

(2面につづく)

今月号のなかみ

- ▶ 2面 = 1面のつづき、健康生活情報ナビ「花粉症皮膚炎」、最近よく聞く言葉
- ▶ 3面 = 高次脳機能障害リハビリテーション講習会、こころの健康、インターネットで初診予約
- ▶ 4面 = ゴールドメディアだより、総合南東北福祉センターだより、がん患者家族サロンほっと、陽子線治療実績、当院の目標
- ▶ 5面 = 医師志望の高校生が当院で医療体験
- ▶ 6面 = 2019年度医学健康講座の日程決まる、井上仁一郎さんのギターコンサート、専門外来「禁煙外来」
- ▶ 7面 = 増子輝彦さんのコラム、ご意見箱から、シャトルバスが通常ダイヤに、1月の手術件数・救急車台数
- ▶ 8面 = 今月の元気レシピ、薬局だより、編集後記

健康生活情報ナビ

花粉症皮膚炎

うです。加えてこれからは、紫外線の量も多くなる時期です。このため肌はさらにダメージを受けやすくなります。このような時期は、外出時、在宅時も工夫して肌を守りましょう。

【外出時の注意】

春は花粉症のシーズンですが、花粉症が引き起こす症状は鼻や目のトラブルだけとは限りません。あまり知られていませんが、「花粉症皮膚炎」と言って、肌にトラブルが起る場合もあります。肌には赤みが生じ

顔などにかゆみ、赤み 外出時は眼鏡、マスク活用を

る、粉を吹く、かゆみが出る、といった症状です。刺激を受けやすい目の周囲や頬を中心とした皮膚に、かゆみ、赤み、灼熱（しゃくねつ）感などが生じる場合が多いようです。

こうした症状は、目や鼻と同様、肌が花粉にさらされることによって引き起こされます。放置したり、かさ壊したりしてしまつと、深刻な肌トラブルを招くこともありますので、肌を保護することが大切です。花粉の飛散はまだ続きそ

【在宅時の注意】

できるだけ花粉にさらされる肌の面積を減らすことが大切です。眼鏡やマスクをして出かけ、髪に花粉がつかないように帽子を被るのもよいでしょう。帰宅したら洗顔をして花粉を落としましょう。

× ×

前途のようなケアをしても症状が治まらない方は、皮膚科を受診することを勧めます。また、元からアトピー性皮膚炎などの疾患をお持ちの方は、自己判断でケアをせず、かかりつけ医の指導のもとで、ケアを行ってください。

（1面からつづき）

▼女性の頻尿と失禁

女性よりも尿道が短いので男性よりも圧倒的におしっこをもらしやすいためです。また、女性の場合は膀胱の後ろに子宮があるので、それに押されておしっこが漏れたり、出にくくなつたりします。膀胱の下には尿が漏れないようにする骨盤底筋があります。子どもを産むとそれが壊れたり、弱まつたりして尿漏れが起きやすくなります。

「突然我慢できないほどの強い尿意を感じる」「日中、トイレが近い」「トイレに間に合わず尿が漏れる」といった経験はないでしょうか。こうした症状は過活動膀胱

の症状と言います。

尿は膀胱の収縮によって溜まつたり排泄されたりしますが、年を取ると膀胱が固くなって伸びないため尿が漏れてしまうのです。過活動膀胱というのは膀胱の緊張です。治療は薬物療法が中心です。最近では非常によく効く薬が出ています。あとは生活指導などの行動療法で手術はありません。

お腹に力が入ると尿が漏れるのは腹圧性尿失禁です。咳、くしゃみをした時、大笑いしたり重いものを持ち上げたりした時に尿が漏れる症状です。原因は骨盤臓器脱で、骨盤底筋が弱まることで子宮や膣が下に落ちて膀胱を圧迫するのです。

▼泌尿器がん

泌尿器のがんには前立腺がんの他に腎がん、膀胱がん、尿管がん、尿道がん、陰茎がん、精巣がん、副腎がんがあります。トイレで赤いおしっこが出たらがんの可能性がありますので、すぐに来てください。日頃からトイレに入ったときは尿、大便をよく観察する習慣をつけておくことです。

腎がん、膀胱がんも最近の手術は医療機器の進化で、ほとんど内視鏡で行います。

最近 よく聞く言葉

来年の東京五輪の有力メダル候補として期待されていた競泳女子の池江璃花子選手が「白血病」であることを公表し、国内に衝撃が走りました。

白血病は血液のがんと言われています。血液の中にある血球には白血球、赤血球、血小板があり、これらは骨の中にある骨

白血病

髄でつくられます。白血病は、血液がつけられる過程で異常が起こり、血球ががん化した細胞（白血病細胞）が無制限に増殖することで発症します。

症状は貧血、出血、感染、肝臓や脾臓の腫れ、発熱、骨痛などです。

白血病は、がん化した細胞のタイプから「骨髄性」と「リンパ性」に分けられ、

さらに病気の進行パターンや症状から「急性」と「慢性」に分けられます。

治療は大半が複数の抗がん剤を組み合わせた大量化学療法ですが、白血病の種類や病状によってはその後、骨髄移植を行うこともあります。

池江選手には国内外から多くの激励のメッセージが寄せられています。病気を克服し再び競技会場のプールで元気な姿を見せてほしいものです。

医師を目指して現場を体験 本院で高校生セミナー 県内1年生 27人が参加



腹腔鏡による手術を見学する高校生（中央の2人）

医師を目指す県内の高校生1年生を対象にした平成30年度後期「地域医療体験セミナー」（医師コース）は、3月7日（木）午前8時半から総合南東北病院で開かれ、高校生が医療の現場を体験、医師の仕事に理解を深めました。

県教委の委託事業「ふくしまの未来を担う夢応援事業」の一環で3回目。本県の医師不足を踏まえた人材育成の願いも込め、医療人ネットワーク合同会社（福島市）と総合南東北病院が連携し実施しました。

今回は県内10校（県立8校、私立2校）から27人（男子8人、女子19人）が参加。北棟第5会議室で行われたオリエンテーションで寺西寧院長が励ましました。

生徒たちは①外科②心臓血管外科③外傷センター④脳神経外科・脳神経内科⑤放射線治療・循環器内科⑥消化器内科・放射線治療⑦歯科口腔外科の7つの班に分かれ、班ごとに組まれたプログラムに従って体験学習を行いました。

このうち外科班の4人は2組に分かれ、午前中、一



放射線治療の計画作成などを学ぶ高校生



外傷センターで説明を聴く高校生

方は胆のう切除、もう一方は腹膜腫瘍摘出の手術に立ち会いました。いずれも腹腔鏡を使つての手術。生徒たちは医師の指導に従って入念に手洗いし、キャップ、ガウン、ゴム手袋を装着。モニター画面を見ながら手術に取り組む医師の一挙手一投足を緊張しながら見ていました。

このほか各班のプログラムには、模擬骨を使った実



研修医や医学部生との意見交換



コイルを使った動脈瘤治療を学ぶ高校生

習、人工血管吻合体験、がん陽子線治療センター見学、歯の模擬治療体験などもありました。

昼食時の全体会では心臓血管外科の緑川博文医師が「医師を目指す皆さんへ」と題し、医師になるといふことはどういうことかを自らの体験を披露しながら熱く語りました。研修医と福島県立医科大医学部生との意見交換も行われました。



寺西院長（中央）らを囲み写真に収まる高校生

終了時には各班の代表が体験の感想を述べました。「目標が明確になった」「患者さんとのコミュニケーションの大切さを知った」「医師にも物理や化学が生かせる分野があると認識した」などの感想があり、生徒たちは目標に向けて決意を新たにしました。